

環境監査研究会 35 年の軌跡

環境監査研究会

2025 年 8 月

目次

I.	はじめに		3 頁
II.	記録		
1.	研究会の発足(EARG NEWS 創刊号抜粋)		9 頁
2.	定例会		12 頁
3.	講演会		33 頁
4.	サロン		33 頁
5.	設立記念会合・シンポジウム		35 頁
6.	入門セミナー		43 頁
7.	特別プロジェクト		43 頁
8.	その他		44 頁

1. はじめに

はじめに

1970年前後に先進国での公害問題が顕著になり各国で様々な法規制が制定施行された。そのころ既に地球環境問題も専門家の間では顕著になりつつあり、1972年にはストックホルムでの国連の地球・人間会議が開催され、ローマクラブの「成長の限界」が出版されたりした。欧米で昨今のサステナビリティ情報開示の先駆となる社会管理会計が唱えられだしたのも1970年代であったが、これは様々な理由で一旦は下火になったと理解している。また、欧米では企業での環境事故は上級職のホワイトカラーが責任を問われることがメインであることから1980年代には自主的な管理として環境監査(Environmental Auditing)が少なくとも大企業では行われ始めたようである。

1980年代に入るとグローバリゼーションの進展と相俟って地球環境問題が企業に現実の問題として認識されだしてきた。それが劇的に加速化したのは1989年3月の公害問題ではあるがエクソン・バルディーズ号によるアラスカ海岸のオイル汚染であったと理解している。それを契機にしてアメリカのNGOのCERESが10項目のバルディーズ原則(シリーズ原則に改名)を策定した。その原則を広めるべく1990年に須田春海氏を中心に起草者の一人であるジョアン・バーハリア氏を招いてシンポジウムが開催され、1991年にはバルディーズ研究会(通称、バル研)が発足し、それまでそうした市民活動に関心も関係も持たない多くのサラリーマンが関心を寄せた。筆者もその一人であり、その活動の中で企業の環境マネジメントや情報公開に関心が深かった数名がプライベートに勉強会を始めたのが環境監査研究会(EARG, Environmental Auditing Research Group)の発端であった。以降の活動をII.記録として記載しているのでそちらを参照されたいが、10年単位の大括りでトピックスのみ以下に記す。

1. 1990年代

上記を背景に倉阪智子(会計士補)、水口剛(会計士補・当時バルディーズ研究会事務局)、後藤敏彦(会社員)、他数名(程なく退会)で1991年8月1日に環境監査研究会を立ち上げた。まもなく酒井嘉昭が初代事務局長に就いた。顧問には会計学の泰斗であられた(故)矢部浩祥中央大学教授、河野正男横浜国立大学教授、(故)土屋守章東京大学教授に引き受けていただいた。

90年代はISO14000sが企業の大きな関心を呼んでおり、環境マネジメント全般について精力的に勉強会等を行った。それとは別に有志で企業の環境報告書の研究を始めたがこれはシリーズ原則第10項が情報公開を謡ったものであったことによる。その成果は日本で初の環境報告書の作成ガイドとなる『環境報告書のベンチマーク』を1996年にバル研と共同で発刊し、多くの企業から購入いただいた。

こうした活動もあってか、1997年に上記CERESやUNEP(国連環境計画)が1997年に発足したGRI(Global Reporting Initiative)の第二回会合が米国ワシントンDCのWRIオフィスで開催された時に紹介をうけて3名が参加した。以降は筆者(後藤敏彦)が1998年12月の環境監査研究会35年の軌跡

ユネーブ会合で GRI 運営委員(Steering Committee Member)に選任され、2002年にオランダ・アムステルダムでの非営利法人設立、その後2期は理事として深くかかわった。1999年には GRI のサステナビリティレポーティングガイドラインの公開草案、2000年の第1版を翻訳刊行し多くの企業に活用いただいた。これらにより、日本企業の環境報告書の多くが CSR 報告書に替わり、別団体の環境報告書ネットワークの2002年報告書では「CSR 報告書元年」という総括がなされていた。

また、環境マネジメントに関しては1998年12月に EARG 内に日本環境監査人協会設立準備委員会」を立ち上げ1999年6月の設立迄全面的に支援し、以後も協働活動をつづけた(同会はその後「日本環境管理監査人協会」に名称変更した)。

2. 2000年代

上記の流れで精力的に活動していたが GRI 関係は2003年頃から(株)クレアンの藺田綾子氏の尽力により企業の報告書作成部門の方々による GRI 日本フォーラム(その後「サステナビリティ日本フォーラム」に改名)が設立され、そちらに移った。

この時期のトピックは事務局を任せていた K 氏の会社で会計問題が発生してしまったことである。この問題については会員の佐藤泉弁護士に無償で一方ならぬご尽力を賜り、損失を出すことなく解決できた。感謝しても感謝しきれない事であった。また、その間の会の運営についてはデロイトトーマツの稲永弘(同氏はその後EARG 共同代表幹事も務められたが病を得て引退された)、EY 系サステナビリティ企業の水本江里子(故人)、酒井嘉昭初代事務局長等々、会員その他の多くの方々の支えで継続運営できた。

3. 2010年代以降

会の運営を一手に引き受けてくれた松本徹事務局長のもと、継続的に活動を続けられた。特に、長年にわたり研究会を開催してきた中央大学駿河台記念館の建て替えが発生し、研究会の開催場所の確保その他に実に精力的に活動し、EARG の活動継続に努めていただいた。

2020年代に入りコロナ禍もあり対面での会合がむづかしくなったのでオンラインでの研究会に切り替えた。また、松本徹事務局長も病に倒れ、事務局機能をサステナビリティ日本フォーラムに委託し少なくとも月一回の会合は継続できた。

おわりに

以上、簡単に軌跡を述べたが35年にわたり継続活動できたことは関わった全ての人々の熱意と努力の賜物であり深く感謝する次第である。関わった多くの方のメッセージも頂きたいところではあるが、初期からの倉阪・水口・酒井の3名からのみのものを次に載せておく。

環境マネジメント、情報公開・開示の初期からグローバルに活動できたことは幸せであったの一言に尽きる。

(文責、後藤敏彦)

2025年に思うこと

今から約40年前、大学生だった私は、環境問題に取り組む人々に出会い、大きな影響を受けました。大学を卒業して米国系経営コンサルティング会社に入社した時は、「ここで10年くらいビジネス界の諸々を学んだ後、その経験をもとに、環境や将来世代のための活動を始めよう」という計画をもっていました。

しかし連日深夜まで残業する日々に「10年の修行中に突然死したら自分の人生に悔いが残る！」と思い、当初の計画は断念し、未熟な自分でも何らかの活動しつつ、仕事もしつつ、両輪でやっというかと決め、環境ボランティアの活動をさがし、出会った人の一人が原子和恵さんでした（彼女が後に水口さんと出会い、お二人が結婚されるとは、全く予想できていませんでした）。彼女から声をかけて頂き、バルティーズ研究会の設立につながる集まりに参加する頃には、「経験不足でも専門分野を持てば、そこで貢献できるだろうから、環境問題に取り組む公認会計士になろう」が目標になっていました。

その頃、欧米の文献から「環境監査」を知り、これこそ自分が取り組むべきテーマだと思いました。水口さんや後藤さん、酒井さんをはじめ、たくさんの人が興味を持ってくださり、環境監査研究会が誕生し、一緒に環境監査を学び、環境問題について考え、将来世代のための活動を展開できたことは、自分にとっては大変幸せなことでした。かかわってくださった全ての方々に、今あらためて感謝したいと思います。とりわけ私自身がキャパオーバーで早々に環境監査研究会から引退した後、2025年まで長きにわたり、活動を維持・発展させてくださった後藤さんには、どう感謝しても感謝しきれないです。

35年前、米国の活動からは大きな刺激を受け、学ぶことが多いと感じましたが、2025年の今、米国は今後どうなっていくのか、心配がふくらむばかりですし、日本についても正直なところ懸念が先にたってしまいます。しかし先日お会いした後藤さんは、この現在の状況だからこそ将来のための活動を展開できそうな若者、次世代の人々への期待を語ってくださり、あらためて後藤さんへの尊敬と感動の気持ちが沸きました。後藤さんをはじめ、環境監査研究会にかかわってくださった色々な方のことを思い出すと、きっと皆さんがそれぞれの分野で、環境のことを考え、活動を展開してくださっているのでは、と想像がふくらみ、前向きな気持ちになれます。皆さんの御活躍に期待するとともに、私自身も今できる範囲のことをその時々で見極め、わずかながらも取り組みを続けていこうと思います。

倉阪智子

環境監査研究会に思う

たぶん最初のきっかけは、環境監査の勉強会をしようと倉阪さんに声をかけて頂いたのだと思う。まだ ISO14001 も登場前で、日本では環境監査という概念はほとんど知られていなかった時代である。倉阪さんの先見性には心から敬服する。

その後、勉強会から研究会へと衣替えし、会員制の組織になった。35 年の軌跡を見ると、毎月の定例会を中心にシンポジウムやプロジェクトなど、活発に活動したことが改めて確認できる。これほど幅広く、充実した研究会が、これほどの長きにわたり継続できたのは、後藤さんのご尽力の賜物である。特にここまで続いた定例会は、後藤さんの視野の広さと人脈を広げる力量なしにはできなかったことと思う。後藤さんは環境監査研究会以外にも複数の組織を立ち上げ、さまざまな組織や役所の検討会等にも関わるなど、相当忙しかったはずだが、それでも環境監査研究会を最後まで支えてこられた姿勢に敬意を表したい。

環境マネジメントシステムと環境監査という概念は広く普及し、ISO はその後 ISO26000 をはじめ、多くの国際規格を世に出した。EMAS(Eco-management and audit scheme)で先行した EU は、その後もサステナビリティの世界をけん引し、EU タクソノミーや SFDR など、多くの仕組みを導入している。環境報告書はサステナビリティ報告書や統合報告書へと発展し、今や投資家向け制度開示にサステナビリティ情報を組み込むところまできた。ISSB や SSBJ が開示基準を公表し、サステナビリティ情報に対する保証 (assurance) の制度化の議論が始まった。かつて SRI (社会的責任投資) と呼ばれた考え方は ESG 投資やサステナブルファイナンスと呼ばれるようになり、大手の機関投資家にも浸透した。倉阪さんや後藤さんに初めて会った 35 年前から、社会の仕組みはずいぶん進んだ。

それにも関わらず、環境と社会の課題は改善したようには見えない。環境監査研究会は主に都内で会合を持ったが、当時、夏でも都内の気温が 35°C を超えることはめったになかったのではないか。世界気象機関の推計によれば、2024 年の世界の平均気温は産業革命前と比べて 1.55°C の上昇だそうだが、これは「平均」なので、夏の「最高」気温の上がり方はもっと激しい。環境問題だけでなく、社会課題の解決も十分ではなく、むしろ分断が進んだように見える。まだまだすべきことは多く、それはきっと、環境監査研究会に関わった多くの人に引き継がれていくのだろう。

ところで私は、いつの頃からか、環境監査研究会の監査を担当することになった。会計をしてくれたのは野崎麻子さんである。毎年、監査の時に野崎さんが送ってくれる帳簿と決算書は完璧だった！よく、会計士が監査の記録である監査調書を作るとき、「レファレンス」ということをする。どのページのどの数字が、別のページのどの数字とつながっているかを示す記号である。多分ご自身が確認のためにされたのだと思うが、野崎さんが作る帳簿にはこのレファレンスが完璧にされていて、かつて出来の悪い会計士だった私には、監査の教科書のように見えた。最後まで面倒を見てくれた野崎さんにも、心から感謝したい。

水口 剛

環境分野の人材育成・組織組成を支えた生態系として

1990 年、環境問題が企業活動の現実的な課題として浮上する中、環境監査研究会（EARG）は、公認会計士や会社員、大学教員、学生など数名のメンバーでその活動を開始しました。

当時の情報通信は限定的で、活動の核は、海外の専門文献を読み解き、対面での議論を通じて知識を深めることでした。手探りのアナログな活動で、資料、会報の印刷と郵送とその配布、ホームページの更新、会費管理が初期の事務局の仕事でした。

環境監査や情報公開という社会を変えることができる新しいテーマやツールの研究に挑み、その知見を共有する「場」を若い情熱で築いた時期です。

国際的なネットワークの形成

1990 年代後半から 2000 年代にかけて、ITC の進展とともに参加者の多様化により、議論の範囲が環境管理システム（EMS）の国際標準化（ISO14000s）から、排出権取引、社会的責任（CSR）へと急速に広がりました。この時期、EARG は日本初の環境報告書作成ガイドを共同で発刊し、企業の自主的な情報公開に大きな影響を与えました。

EARG のメンバーが国際的な環境レポートの枠組み GRI（Green Reporting Initiative）の運営委員に就任し、ガイドラインの日本語訳を出版するなど、EARG は日本社会に不可欠な知識を創出し、それを還元するプラットフォームへと進化してゆきます。

環境人材育成の孵卵器として

EARG の参加メンバーの多くが、その後の日本の環境・サステナビリティ分野を牽引する重要な役割を担い参加者個人のライフピボット（人生の転換）を促しました。企業に所属していたメンバーが環境分野の専門家や研究者、ソーシャルアントレプレナーとなり、組織の環境管理を内外から変革する役割を果たしました。

EARG は日本環境監査人協会の設立を支援するなど、EARG は知識と経験を社会全体に還元する仕組みを生み出す新たな人材育成・組織生成の生態系としての役割を果たすようになりました。

現代版環境分野の「松下村塾」

1991 年、日本経済新聞社から日本初の環境監査に関する入門書『環境監査入門』が刊行されました。これは、EARG の活動が社会の関心を集め、専門知識を広く普及させるきっかけとなったものです。

吉田松陰が、身分や階級にとらわれず、志ある若者を集め、個性を重んじ、未来を託したように、EARG もまた、肩書や所属を超えて集った人々が、自主的な学びと活発な議論を通じて、専門性を磨き、社会を動かす原動力となりました。

後藤俊彦代表幹事の知的探求心と情熱、そこに集った多くの方々の思いと活動の軌跡が、今日の日本における環境管理・監査・金融のサステナビリティ思想の礎となったこと、その立ち上げにわずかですがお手伝いできたことをとても誇らしく思い、ここに記します。

初代事務局 酒井嘉昭

II.記録

1. 研究会の発足

EARG NEWS 創刊号抜粋

Vol. 1

1991年10月20日 発行

EARGNEWS

創刊号



Environmental Auditing Research Group

環境監査研究会会報

目次

I . 発刊に寄せて..... 1

II . 日本電気の環境監査制度について..... 3

III . これまでの活動..... 4

I . 発刊に寄せて

環境監査研究会の発展を願う

横浜国立大学 経営学部 河野 正男

わたしたちは、昭和40年代の高度成長期に、活発な企業活動により引き起こされた深刻な地域的環境問題（公害問題）を経験しています。この時期、アメリカやイギリスなどで、公害ばかりでなく、社会の中の少数派の人々の雇用と昇進、製品の安全性、公正な取引等、いわゆる企業の社会的責任活動の実態を把握し、その結果を経営管理に役立てる一方、開示することを求める、新しい会計分野の展開が試みられました。この新分野は、社会監査（あるいは社会責任会計、企業社会会計）といわれています。残念ながら、二度のオイルショックにより多くの企業が自身の存続と維持に全力を割かざるを得なくなり、企業および会計専門家共々、社会監査に対する関心を漸次薄れさせていったように思います。

平成の時代に入り、地球の温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊等、再び環境問題に関心が寄せられています。今回は、地球規模の広域的問題です。このまま手をこまねいてしまうと人類および他の生命体の将来に計り知れない悪影響がでるのではないかと心配されます。それ故、今、環境問題に対する適切な対策が求められています。この様な折に、環境問題への取り組みに熱意を持つ若い会計専門家やビジネスマンを中心に、環境監査研究会が発足したことは時宜を得たといえます。

会員相互の議論を通じて、環境問題への対応についての理解が深まることはもちろんのこと、研究会の広報活動により社会一般の人々の環境問題に対する関心が一層高まり、企業や政府の環境問題への対応を加速することができれば、と思っています。The Greening of Accountancyの著者、R.H.Grayが言っていたように、会計専門家の視点からは、三度目のチャンスは、もうないかもしれません。社会監査の轍を踏まないためにも、環境監査研究会の持続的発展を願う次第です。

-1-

1970年代に登場した「社会監査 (Social Audit)」は、人々の「生活の質 (Quality of Life)」という福祉の全体を測定し、報告し、それを監査するという構想をもって誕生した。わが国では、1960年代後半の深刻な公害問題が、アメリカにおいては、公害問題に加えて、製品の安全性等を告発する消費者運動が、また機会の平等を要求する女性解放運動や黒人解放運動などが社会監査を生み出したのであった。このようにさまざまな社会問題を解決するために、企業は利益という経済的目標に加えて、公害の除去、平等の機会、健康と余暇、文化、教育等の社会的目的を掲げて、それらの実現を図ってきた。

1980年代末から1990年代になって、今度は「環境監査 (Environmental Audit)」が登場することになった。アメリカにおける、土地の汚染の除去に関するスーパーファンド法等がこれを生み出し、ヨーロッパにも広がっている。1960年代の公害の問題は、企業の利益よりもずっと根本的な人間の生存に関する責任の自覚を企業に促したが、しかし、それがおよぶ影響の範囲は、まだ地域社会に限られていた。しかし、1990年代の「環境監査」の出現は、今や環境問題が地球的な規模で考えられなければならない時代に入ったことを象徴している。

社会監査は、人間の生活の質 (福祉) の監査として、一方で社会的平等のようなデモクラシーの価値の一層の実現、他方において人間の生存のための地球的規模における環境監査の出現によって進化拡大がはかられようとしている。そのような意味で、未開拓な荒野を切り開く環境監査研究会の役割はまことに大きいものであると言わなければならない。

環境監査研究会 会報第一号発行によせて

倉坂 智子

欧米の経済誌紙ではじめて environmental auditing (環境監査) という言葉を目にしたのは昨年の秋のことです。いったいどういうものなのか調べてみたいと思っていたところ、今年のはじめにエルムウッド研究所のレポートの存在を知りました。その文献リストも豊富だったことから、これらの文献を読む会をつくろうということで、「環境監査勉強」会をスタートさせたのが今年の春。当初は身近な仲間うちで細々と続けていこうと思っていたのが、関心を持つ人が意外に多く、この夏、いろいろな方々に参加してもらえるようにと「環境監査研究会」として正式に発足しました。

これまで文献を読んだり話を聞いたりした範囲では、環境監査にはいろいろな種類があるようです。最もよく引用されている定義は、環境監査を「経営管理の用具」と位置づけ「環境の保全に寄与するための組織・管理・設備がよく働いているかどうかを体系的・実証的・定期的・客観的に評価するもの」と説明する国際商業会議所 (International Chamber of Commerce: ICC) のものですが、欧米でも定義についてのコンセンサスは得られていません。また、環境監査は欧米だけのものではなく、日本でも先進的な試みはあるようですが、日本での環境監査についての情報はまだ限られています。

当会の発起人としては、環境監査に関心をもつ人々に情報が伝わり、その人々がそれぞれの分野で、環境への負荷を最小化する社会に向けてその情報を役立てて頂ければ大変幸いです。

2 講演会

環境監査を実施している企業の方、専門家の方々のお話を伺い、文献ではわからない環境監査の実務面の情報や最新の情報を得ることを目的とした会です。

第1回(8/1) テーマ 「環境監査の先進事例」－NECの実践－
講師 日本電気 環境管理部長代理 山口耕三 氏

3 研究会の発足

8月1日から一年の会計年度とし、顧問等選任。
設立時の顧問および役員(50音順・敬称略)

顧問 河野 正男 (横浜国立大学教授・生態会計論)

土屋 守章 (東京大学教授・経営学)

矢部 浩祥 (中央大学教授・監査論)

監事 大磯 幸雄 (公認会計士)

幹事 嘉副 葉子 会計担当(会計士補)

後藤 敏彦 会報担当(東京海上火災)

酒井 嘉昭 資料担当(アーバス 代表取締役)

松本 洋人 講演会係(日立総合計画研究所)

水口 剛 講演会係(会計士補)

事務局代表(幹事兼任) 倉阪 智子 (会計士補)

編集後記***

1991年、春。G・H・K・Mの4人ではじめだした研究会が思いもかけぬ展開となりました。今回は、会のニュース創刊号として、従来の活動・今後の期待等を取りまとめました。本来ならば、毎月発行したいのですが、まだまだ体制がととのっていないので、当面は季刊を考えています。(後)

文字だらけ。もっとイラスト入れて「ビジュアル環境監査マガジン」?に!(酒)

EARG NEWS(創刊号)

1991年10月20日発行

編集発行人●後藤 敏彦

発行●環境監査研究会

〒116 荒川区西日暮里3-7-15-30

電話 03-3824-3620

印刷●A P A S

電話 03-5376-8077

2. 定例会

毎月1回、日曜日の午前中に定例会を開いています。設立当初は、環境監査に関する文献を読み、環境監査とは何か、どのような将来展望が考えられるか等について理解を深める文献講読会の形をとっていましたが、日本における環境監査の発展とともに、環境監査実施企業の方にお話を伺ったり、EARG としての研究プロジェクトを検討したり、という機会も生まれ、現在は、講演会形式で開催しています。

===== 1991年 =====

第1回 (4/13) The Elmwood Institute "Eco-auditing and Ecologically Conscious Management"

1990 年 (97 ページ)

米国の非営利研究団体エルムウッド研究所のレポートで、環境監査に対する新しい概念としてのエコ監査を提案。

第2回 (5/26) UNEP (国連環境計画) "Technical Report Series No.2 : Environmental Auditing"

1990 年 (125 ページ)

パリで開かれた会合の要約。環境監査を実施する企業の事例紹介、各国の財界団体・政府機関の発表など。

ICC (国際商業会議所) "Environmental Auditing" 1989 年 (26 ページ)

経営管理の用具としての環境監査の意義を説明し、その具体的な運営方法を概説している。

第3回 (7/7) R.H.Gray "The Greening of Accountancy: The Profession After Pearce"

1990 年 (71 ページ)

英国の環境経済学の権威ピアース教授のレポートを受け、環境会計に関する過去の成果をまとめ、将来展望を示している。

第4回 (7/28) Jhon Elkington "The Environmental Audit: A green filter for company policies,

plants, processes and products" 1990 年 (71 ページ)

グリーン・コンシューマー・ガイドを出版した英国のサステナビリティ社のエルキンソン氏が環境監査を解説。関連団体のプロフィールも添付。

第5回 (8/25) 下記の雑誌に掲載された環境監査に関する記事

英国の雑誌 Certified accountant 1990 年 4 月号

1991 年 4 月号

豪州の雑誌 Charter 1990 年 12 月号

カナダの雑誌 CA Magazine 1991 年 3 月号 (環境特集号)

第6回 (9/29) CA Magazine 1991 年 3 月号

カナダの会計士協会の雑誌の環境特集号。環境監査、環境面のディスクロージャーなど9つの記事

を検討。

「社会監査の歴史的発展」 横浜国立大学教授・生態会計論 河野正男氏

第 7 回 (10/27) ICC (国際商業会議所) ” Effective Environmental Auditing” 1991 年 1989 年に発表された “Environmental Auditing” を更に発展させ、監査の考え方、プログラムの構築方法、運用、報告、アフターケアまでを詳細に解説。

第 8 回 (11/17) 前回のテキストを使用して、つづきを勉強。

第 9 回 (12/15) 「環境監査と環境測定業務」 (株) 環境管理センター 亀元宏宣氏
「アースウォッチの活動と理念」 (株) アーパス 酒井嘉昭氏

===== 1992年 =====

第 10~12 回 出版企画検討会

第 13 回 (4/19) ダイヤモンド社刊「エコロジカルマネジメント」

(第 1 回テキストの日本語訳) をテキストに勉強会

第 14 回 (5/21) 「EC のエコ監査制度について」 ローランド・ベルガー・ファウベル 海野みづえ氏

第 15 回 (6/28) 「ザ・ボディショップの環境監査」 ザ・ボディショップ

梶浜裕子氏

第 16 回 (7/26) 「環境に優しい企業行動調査 結果概要」 横浜国立大学 河野正男氏

「米国環境監査情報」 マクミランサーチ 吉田博之氏

「Environmental Auditing Roundtable (EAR)」

「英国規格 (BSi) について」

*** (8/30) 1 周年記念シンポジウム

第 17 回 (9/27) 「ICC 環境委員会による「地球サミット」の成果と評価」

「From Ideas To Action」 EARG

後藤敏彦氏

「アーサ・D・リトルの環境監査マニュアル」 AIU 植松伸嘉氏

第 18 回 (10/18) 「環境報告書の動向とニーズ」 トーマツ・トウシュロス・コンサルティング

道広英治氏

「土壌・地下水汚染に関するリスクマネジメント」 AIU 植松伸嘉氏

第 19 回 (11/29) 「事務機器をめぐるリサイクルの対応の動き」 キヤノン 上原春夫氏

第 20 回 (12/13) 「企業の環境貢献度分析とランキング」 日本科学技術研究所 木村 誠氏

===== 1993年 =====

第 21 回 (1/24) 「環境監査の定義について」 EARG 有志による発表

第 22 回 (2/28) 「環境監査欧州視察緊急レポート」 EARG

倉阪智子氏

第 23 回 (3/28) 「企業の環境報告書を読む」 EARG

倉阪智子氏

- 第 24 回 (4/25) 「EC エコ・オーデイトの動向」 EARG
後藤敏彦氏
「HASTAM 社 環境監査チェックリスト」 ローランド・ベルガー・ファウベル 海野みづえ氏
- 第 25 回 (5/23) 「キリンビールの環境対応活動」 キリンビール 新美安信氏
- 第 26 回 (6/24) 「エコマネジメントとは」 グローバル・コンサルティング・ネットワーク
鶴田栄作氏
- 第 27 回 (7/4) 「ISO トロント会議報告会」 EARG 有志
- 第 28 回 (7/18) 「コープ滋賀の外部環境監査導入」 名城大学教授 平井孝治氏
- 第 29 回 (8/29) 「環境会計について」 奈良産業大学 富増和彦氏
- 第 30 回 (9/19) 「チェックリスト研究成果報告」 EARG 後藤敏彦氏 海野みづえ氏
- 第 31 回 (10/24) 「環境基本法について」 環境庁企画調整局 角倉一郎氏
- 第 32 回 (11/28) 「ISO9000 認証の手続きについて」 東京海上 下島和彦氏
- 第 33 回 (12/19) 「TC207 最新動向—10 月会議から—」 環境庁企画調整局 倉阪秀史氏

===== 1994 年 =====

- 第 34 回 (1/23) 「ISO9000—申請する時の傾向と対策」 リコー品質管理本部 吉川健介氏
- 第 35 回 (2/20) 「秦野市地下水汚染防止及び
浄化に関する条例について」 秦野市環境保全課 永山孝一氏
- 第 36 回 (3/27) 「国内におけるライフスタイル・アセスメントの動向」 キヤノン 上原春夫氏
- 第 37 回 (4/24) 「IBM の環境監査」 日本 IBM 坂本茂實氏
- 第 38 回 (5/29) 「ISO/TC207 5 月会議の動向について」 環境庁 江口博之氏
- 第 39 回 (7/3) 「産業環境ビジョンについて」 通産省 伊藤 仁氏
- 第 40 回 (7/31) 「環境管理システムを導入するための手順と課題」 (株) フジタ 廣田 修氏
*** (8/27) 3 周年記念会合
- 第 41 回 (9/25) 「ISO/TC207 エコラベル パリ会議動向」 キヤノン 上原春夫氏
- 第 42 回 (10/23) 「欧州の環境管理・監査動向」 日本品質保証機構 中山義雄氏
- 第 43 回 (11/20) 「ライフサイクル・アセスメントの最新動向」 エコマネジメント研究所 森下 研氏
- 第 44 回 (12/18) 「東芝グループの環境監査」 (株) テルム 岸川浩一郎氏

===== 1995 年 =====

- 第 45 回 (1/22) 「ローカル・アジェンダ国内動向」 環境庁 海野耕太郎氏
- 第 46 回 (2/19) 「環境基本計画について」 環境庁 戸田英作氏
- 第 47 回 (3/12) 「環境管理システムに関する国際標準化の動向
及びトライアル事業の実施について」 通産省 太田雄彦氏
- 第 48 回 (4/23) 「エコ・マーケティングとエコラベル」 グリーン・マーケティング研究所 沖 啓介氏
- 第 49 回 (5/28) 「キヤノンにおける環境監査
と BS7750 の取得」 キヤノン (株) 環境技術センター所長 山本英明氏

- 第 50 回 (6/25) 「エスジーエスの認証活動」 (株) エスジーエス開発事業部長 西 健氏
第 51 回 (7/23) 「ISO/TS207 オスロ会議の報告」 環境庁 戸田英作氏
*** (8/26) 4 周年記念会合
第 52 回 (9/24) 「オストランド社の環境監査を行って」 広島大学教授 早瀬光司氏
第 53 回 (10/22) 「製品ライフサイクル・アセスメント - 紙製品飲料
容器リサイクルに関する研究を中心に」 東京水産大学助教授 石川雅紀氏
第 54 回 (11/19) 「自己責任社会・循環型社会と
メルセデスベンツの実績」 富士総合研究所 金谷年展氏
第 55 回 (12/10) 「ISO/TS207/SC3 (エコラベル) ソウル会議報告」 キヤノン 上原春夫氏

===== 1996年 =====

- 第 56 回 (1/21) 「コニカ欧州子会社の EMAS 認証取得について」 コニカ (株) 環境安全推進
室 津田泰夫氏
第 57 回 (2/18) 「環境活動評価プログラムについて」 環境庁企画調整局 戸田英作氏
第 58 回 (3/24) 「環境報告書を読むプロジェクト EARG (ERP) 活動報告」 後藤敏彦氏
角田季美枝氏 岸川浩一郎氏 茂木資子氏
第 59 回 (4/21) 「ISO/TS207/SC4 (EPE) 最新動向紹介」 資源環境研究所 水野建郎氏
*** (5/16 - 17) 環境管理・監査セミナー (工学研究社主催)
第 60 回 (6/16) 「ISO/TC207/SC5 (LCA) 及び日本の LCA の動向について」 産業環境管理協
会 須田茂氏
第 61 回 (7/21) 「ISO 財総会報告ー環境ラベルを中心に」 キヤノン 上原春夫氏
*** (8/23) 5 周年記念会合
第 62 回 (9/8) 「環境審査登録第三者認証制度について」 JAB 今井 充氏
第 63 回 (10/20) 「消費者からみた環境管理・監査」 消費科学連合会 原 早苗氏
第 64 回 (11/17) 「PRTR について」 環境科学情報センター 村上 治氏
第 65 回 (12/15) 「中堅企業の EMS 構築について」 東洋スクリーン 坪内信行氏

===== 1997年 =====

- 第 66 回 (1/19) 「環境活動プログラムの実施状況について」 環境庁 森下 哲氏
第 67 回 (2/16) 「建設業を中心とした ISO14000 欧州調査報告」 CSD 研究会 加島義則氏
第 68 回 (3/16) 「グリーン購入ネットワーク (GNP) の活動について」 GNP 緑川芳樹氏
第 69 回 (4/13) 「イギリスとオランダの地方自治体の環境監査」 東京都 大野まさ代氏
第 70 回 (5/18) 「ISO/TC207 京都総会報告」 日本規格協会 寺田 博氏
第 71 回 (6/22) 「マテリアルフロー資源勘定について」 国立環境研究所 森口祐一氏
第 72 回 (7/13) 「地球温暖化に関する動向について」 WWF ジャパン自然保護室 渡辺耕一氏
*** (8/23) 6 周年記念会合
第 73 回 (9/28) 「ドイツ循環環境法について」 在日ドイツ商工会議所 林 哲裕氏

第 74 回 (10/26) 「審査登録制度の現状と第三者認証の信頼性について (仮)」

(財) 日本品質保証機構 ISO 審査本部副本部長第 2 審査センター所長 市川昌彦氏

第 75 回 (11/9) 「監査論と環境監査」 中央大学商学部教授 矢部浩祥氏

第 76 回 (12/7) 「環境報告書について」 神戸大学助教授 國部 克彦氏

===== 1998 年 =====

第 77 回 (1/18) 「TC207/SC3 エコラベルの審議状況」 産業環境管理協会 上原春夫氏

第 78 回 (2/15) 「LCA の現状と課題：日本 LCA フェーラムの活動を中心として」

環境管理センター 須田 茂氏

第 79 回 (3/15) 「COP3 のその後：産業界の取り組みを中心として」

(社) 経済団体連合会産業本部地球環境グループ 秋元 直氏

第 80 回 (4/19) 「化学物質のリスク・アセスメントとマネジメント」 化学品安全管理研究所所長 大島 輝夫氏

第 81 回 (5/24) 「自治体 ISO14001 審査登録についてー上越市の例を中心にしてー」

(株) 日本環境認証機構 主任審査員 中牟田 氏

第 82 回 (6/21) 「ソーシャル・インベストメントとは何か」

環境監査研究会幹事 公認会計士・高崎経済大学講師 水口 剛氏

第 83 回 (7/26) 「ISO/TC207 サンフランシスコ会議の結果報告」

環境庁企画調整局 環境保全活動推進室 室長補佐 大熊 一寛氏

*** (8/29) 7 周年記念会合

第 84 回 (9/20) 「グリーン購入についてーグリーン購入ネットワークの現状と課題」

グリーン購入ネットワーク 佐藤 博之氏

第 85 回 (10/18) 「OECD の PRTR 国際会議報告」

環境監査研究会代表幹事 後藤 敏彦氏

第 86 回 (11/15) 「プロジェクトマネジメントの動向」

(株) プロシード 取締役 西 健氏

第 87 回 (12/13) 「IATCA (国際審査員及び研修コース審査登録協会) の動向」

(社) 産業環境管理協会環境マネジメントシステム審査員評価登録センター参事 須田 茂氏

===== 1999 年 =====

第 88 回 (1/24) 「ISO/TC207/SC4 (環境パフォーマンス評価) 最新動向ークアラルンプール会議報告」

(社) 産業環境管理協会調査企画部 松本 清文氏

第 89 回 (2/21) 「サイトアセスメント」

千代田ゲームス・アンド・ムーア 環境部 牧 明彦氏

第 90 回 (3/28) 「環境ラベル (ISO14020s) の最新動向」

環境監査研究会幹事 (社) 産業環境管理協会 上原 春夫氏

第 91 回 (4/18) 「大学での ISO14001 認証取得」

武蔵工業大学 環境情報学部教授 中原 秀樹氏

第 92 回 (5/23) 「GRI ガイドラインについて」 環境監査研究会代表幹事 後藤 敏彦氏

第 93 回 (6/20) 「TC207 報告」

環境庁企画調整局 環境保全活動推進室 課長補佐 大熊 一寛氏

第 94 回 (7/25) 「HACCP の現状と動向」

エス・ジー・エス・ファーイーストリミテッド 製品認証部 マネージャー 川元 将氏

*** (8/21) 8 周年記念会合

第 95 回 (9/19) 「LCA—解釈とは？」

通産省工業技術院 機械技術研究所 工学博士 研究調査官 赤井 誠氏

第 96 回 (10/24) 「ISO 認証取得の事例報告—流通業」

(株) 西友 環境対策室室長 小林 珠江氏

第 97 回 (11/14) 「エコラベル—主としてタイプ 1 について—スタートから現在まで」

(財) 日本環境協会・SC3 エキスパート 橋爪 繁幸氏

第 98 回 (12/12) 「環境会計—日本公認会計士協会の取り組みほか」

日本公認会計士協会 環境監査専門部会 環境会計グループ 主査 環境監査研究会幹事 水口 剛氏

===== 2000 年 =====

第 99 回 (1/23) 「タイプ 3 の今後の方向性」 (社) 産業環境管理協会 上原 春夫氏

第 100 回 (2/20) 「商社における ISO14001」

伊藤忠商事 (株) 地球環境室長 清水 寿郎氏

第 101 回 (3/26) 「OHSAS18001 (労働安全衛生マネジメントシステム) と ISO 化の動向について」

BSI ジャパン (株) 副社長 吉村 正道氏

アシスト&ベストコンサルタント事務局長 労働安全・衛生コンサルタント 雫 文男氏

第 102 回 (4/16) 「東京都水道局における環境会計への取り組み」

東京都水道局総務部主計課 課長 小山 隆氏

第 103 回 (5/21) 「環境庁の環境会計ガイドライン」

環境庁企画調整局企画調整課 調査企画室長 小木津 敏也氏

第 104 回 (6/18) 「ISO 取得事例研究：建設業」

大成建設 (株) 安全・環境本部 環境マネジメント部 地球環境室室長 大竹 公一氏

第 105 回 (7/23) 「ISO/TC スtockホルム会議報告」

環境庁企画調整局 環境保全活動推進室 係長 熊倉 基之氏

第 106 回 (9/17) 「富士ゼロックスにおける土壌・地下水の浄化対策と情報公開」

富士ゼロックス (株) 人総センター岩槻総務部 新信 達朗氏

第 107 回 (10/15) 「横須賀市の環境会計」

神奈川県横須賀市環境部環境管理課政策担当 松尾 和浩氏

第 108 回 (11/19) 「ISO14001 取得事例～廃棄物処理業」 太平興産(株) 代表取締役 山上 毅氏

第 109 回 (12/10) 「HACCP の現状」 (株)フーズデザイン 代表取締役 加藤 光夫氏

===== 2001年 =====

第 110 回 (1/21) 「COP3 報告～地球温暖化問題 COP6 報告」

気候フォーラム 平田 仁子氏

第 111 回 (2/18) 「環境庁の環境パフォーマンス指標・環境報告書ガイドライン」

環境庁 熊倉 基之氏

第 112 回 (3/25) 「ISO14015について」

財団法人日本品質保証機構 システム技術室 渡邊 格氏

第 113 回 (4/15) 「ISO 取得事例研究～法律事務所」 関東法律事務所 中園 繁克弁護士

第 114 回 (5/20) 「改定廃掃法と課題」 弁護士 佐藤 泉氏

第 115 回 (6/18) 「食品リサイクル法について」

農林水産省総合食料局 食品作業企画課 食品環境対策室 食品リサイクル班担当補佐 加藤氏

第 116 回 (7/22) 「ISO/TC207 クアラルンプール総会報告」

環境省 環境経済課 川浪 誠氏/環境監査研究会 後藤 敏彦氏

第 117 回 (9/30) 「建設リサイクル法について」

(株)竹中工務店東京本店安全環境部 大平 将之氏

第 118 回 (10/14) 「燃料電池について」

燃料電池開発情報センター事務局長 増永 信彦氏

第 119 回 (11/18) ISO19011の動向

(財)日本品質保証機構 特別参与 市川 昌彦氏

第 120 回 (12/16) 「企業の環境格付け」

株式会社 ニッセイ基礎研究所 主任研究員 川村 雅彦氏

===== 2002年 =====

第 121 回 (1/20) 「環境コミュニケーション規格の動向」

環境監査研究会 後藤 敏彦氏

第 122 回 (2/17) 「家電リサイクル法 現場からの報告 政令指定都市における家電リサイクル法への取組」 横浜市環境事業局 松野 一郎氏

第 123 回 (3/10) 「フロン回収法、自動車リサイクル法」

元ストップ・フロン全国連絡会事務局長 桃井 貴子氏

第 124 回 (4/14) 「COP7 の概要、京都議定書批准および今後の課題」

気候ネット事務局 平田 仁子氏

第 125 回 (5/19) 「東京都の土壤汚染条例」

東京都環境局環境改善部 土壤地下水汚染対策担当 副参事 宮川 正孝氏

第 126 回 (6/23) 「環境会計 経産省ガイドライン、環境省改訂ガイドライン」

水口 剛 氏 (両検討会委員、高崎経済大学助教授、環境監査研究会監事)

第 127 回 (7/14) 「ISO/TC207 ヨハネスブルグ総会報告」

経済産業省 管理システム標準化推進室室長 吉村宇一郎氏

第 128 回 (9/15) 「エコラベル・タイプⅢ、JEMAI Project」

(社) 産業環境管理協会 調査企画部 技術顧問 山本英明氏

第 129 回 (10/13) 「ハネスブルグ地球サミット(WSSD)報告」

環境パートナーシップ・オフィス 木原ちあき氏

第 130 回 (11/17) 「排出権取引(及び CDM)」

経済産業省 産業技術環境局環境政策課地球環境対策室調整係長 井上 学 氏

第 131 回 (12/8) 「土壌汚染対策法」

環境省環境管理局水環境部土壌環境課課長補佐 荒木 真一 氏

===== 2003年 =====

第 132 回 (01/19) 「地域通貨」 大和市情報政策課副主幹 小林 隆 氏

第 133 回 (02/16) 「排出権取引」 松尾直樹氏 Climate Experts 代表

第 134 回 (03/16) 「環境格付」 環境経営格付機構理事 木俣 信行氏(鳥取環境大学教授)

第 135 回 (04/13) 「環境省 EPI 改定版」

日本総合研究所 創発戦略センター 佐藤 洋二氏

第 136 回 (05/18) 「有機食品の検査認証制度の概要とコーデックスガイドラインの解説および関連する国際合意」 日本有機食品認定連絡協議会会長 岩泉 好和 氏

第 137 回 (06/15) 「環境マネジメントの変遷—リコーグループで取り組もうとしている CSR」

リコー 社会環境本部 兼 CSM 本部兼 CSR 室審議役 中丸 進 氏(会員)

第 138 回 (07/13) 「EU 化学物質政策の現状」 弁護士 佐藤 泉 氏 (会員)

第 139 回 (9/21) 「トラック事業・グリーン経営認証制度」

交通エコロジー・モビリティ財団 加藤 信次 部長

第 140 回 (10/19) 「グリーン調達調査共通化協議会」 キヤノン 古田 清人 部長

第 141 回 (11/16) 「環境コミュニケーション規格の動向」

ISO14063 エキスパート 後藤 敏彦 氏

第 142 回 (12/14) 「情報セキュリティシステム審査」

(株) グローバルテクノ 技術部 ISMS 審査員 青木 克彦 氏

===== 2004年 =====

- 第 143 回 (01/18) 「環境報告書審査制度について」 JQA 参与、中山 氏
第 144 回 (02/15) 「グローバル化と雇用」
日本労働組合総連合会 国際局 部長 大久保暁子 氏
第 145 回 (03/14) 「労働安全衛生認証」 中村 幸男氏(技術士事務所)
第 146 回 (04/11) 「食料問題」 槌田 氏(京都精華大学)
第 147 回 (05/23) 「環境報告書ガイドライン改訂版、エコアクション 21 認証制度」
環境省 環境経済課 課長補佐 川野 光一 氏
第 148 回 (06/20) 「意見交換会」
第 149 回 (07/25) 「WTO」 JANIC 佐久間 智子氏
第 150 回 (9/26) 「ISO/TC207 ブエノスアイレス・14001 改定総会報告」
ISO/TC207/SC1 エキスパート 寺田 博 氏
第 151 回 (10/17) 「自然エネルギー」 大林 ミカ 氏(講師変更になりました)
第 152 回 (11/14) 「京都議定書 CDM メソドロジー」
クライメート・エキスパート 松尾 直樹 氏
第 153 回 (12/12) 「電気・電子製品の環境関連国際標準化対応」
坂本 茂實 氏(IEC エキスパート・環境監査研究会理事)

===== 2005 年 =====

- 第 154 回 (01/16) 「エコアクション 21、認証制度」
エコマネジメント研究所代表(認証制度中央事務局地球環境戦略研究機関「持続性センター」) 森下 研 氏
第 155 回 (02/20) 「科学技術と応用倫理学---企業人のために」
総合研究大学院大学助教授 柴崎 文一 氏
第 156 回 (03/12) 「食品のトレーサビリティについて---現状と課題」
株式会社グッドテーブルズ 山本 謙治 氏
第 157 回 (04/17) 「ISO22000 (食品の 9000、HACCP とも深い関係)」
(独) 農林水産消費技術センター 理事 湯川剛一郎 氏
第 158 回 (05/15) 「世界のエネルギー事情とわが国のエネルギー・原子力政策」
筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授 内山 洋司 氏
第 159 回 (06/19) 「経済産業省 技術戦略マップ〜環境・エネルギー分野を中心に〜」
経済産業省 産業技術環境局研究開発課 小林調整官
第 160 回 (07/24) 「生物多様性について」 CSR 研究所取締役 足立直樹氏
第 161 回 (9/25) 「ソフト・ローをどう考えるか」 佐藤 泉 弁護士(会員)
第 162 回 (10/16) 「サステナビリティと水」
2006 日本水フォーラム (JWF) 事務局長 尾田栄章 氏
第 163 回 (11/20) 「産廃事業者の実態と産廃事業の動向について」

千葉県印旛地域整備センター用地課長 元 産廃 G メン 石渡正佳 氏
第 164 回 (12/11) 環境省「社会的責任(持続可能な環境と経済)に関する研究会」報告書
後藤敏彦 (環境監査研究会代表幹事、上記研究会スーパーバイザー)

===== 2006 年 =====

第 165 回 (01/15) 「環境税—何が論点か?—炭素税(地球温暖化対策税)を中心に—」
(JACSES) 千葉商科大学商経学部教授 伊藤 肇 氏
第 166 回 (02/19) 「GRI ガイドライン 2006 年版パブリックコメント用ドラフト解説」
後藤 敏彦(環境監査研究会代表幹事、GRI 理事)
第 167 回 (03/26) 「LOHAS」 イースクエア副社長 本木 啓生氏
第 168 回 (04/16) 「第 3 次「環境基本計画」
環境省 環境省総合環境政策局環境計画課計画官 苦瀬雅仁 氏
第 169 回 (05/28) 「排出量取引の概要と現状」
クライメート・エキスパート 松尾直樹 氏
第 170 回 (06/18) 「CSR と企業倫理」 麗澤大学教授 梅田 徹 氏
第 171 回 (07/24) 「内部統制制度の概要と企業経営に与える影響(日本版 COSO)」
監査法人トーマツリスクマネジメント・マネージャー公認会計士 森谷博之 氏
第 172 回 (09/24) 「なぜ公共工事の入札制度問題を抱え続けるのか」 佐藤 正則 氏
第 173 回 (10/15) 「環境面から見たロジスティックスの課題～海外との比較も含めて～」
社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS 研究所 主任研究員 北條 英 氏
第 174 回 (11/19) 「アジアにおける日系企業の CSR～タイを中心に～」
財団法人地球環境人間・環境フォーラム 中寺 良英 氏
第 175 回 (12/10) 「バイオマスをめぐる諸問題」
NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) 理事長 泊 みゆき 氏

===== 2007 年 =====

第 176 回 (01/21) 「中国の環境問題」
愛知大学 COE (現代中国学) 外部研究推進委員/華東師範大学資源与環境科学学院顧問教授
/中国国家環境保全科学技術産業園首席顧問 氏
第 177 回 (02/18) 「知的財産(権)をめぐる諸問題」
知的財産を考える市民懇話会 野村 康秀 氏
第 178 回 (03/18) 「人口減少と環境問題」
政策研究大学院大学 教授 藤 正巖 氏
第 179 回 (04/22) 「化学物質総合管理の新段階 - 環境への取り組みが企業業績に与える影響」
お茶の水女子大学 教授 ライフワールド・ウォッチセンター (LWWC) 長/化学生物総合管理
学会会長 増田 優 氏

第 180 回 (05/20) 「ISO22000」

独立行政法人農研機構 総合情報管理部長 湯川 剛一郎 氏

第 181 回 (06/17) 「元素戦略」

独立行政法人物質・材料研究機構/エコマテリアルフォーラム副会長 原田 幸明 氏

第 182 回 (07/22) 「ISO14064 の概要と活用可能性」

財団法人日本エネルギー経済研究所 ISO/TC207/WG5 Climate Change エキスパート 工藤 拓毅 氏

第 183 回 (9/16) 「国内排出量削減に貢献する排出権取引制度の提案日本版国内排出権取引制度」 東京大学大学院客員共同研究員 森澤 みちよ氏

第 184 回 (10/21) 「地球温暖化の現状と将来予測」 国立環境研究所温暖化リスク評価研究室 長 江守 正多 氏

第 185 回 (11/18) 「環境省境報告ガイドライン 持続可能性報告ガイドライン ISO14063」

後藤敏彦 ガイドライン改訂委員会委員・14063 国際委員

第 186 回 (12/9) 「原子力施設の耐震安全性について」 早稲田大学理工学術院教授 前土木学会会長 濱田 政則 氏

===== 2008年 =====

第 187 回 (1/20) 「J A B活動の現状と課題」 財団法人日本適合性認定協会 認定センター副センター長 亀山 嘉和 氏

第 188 回 (2/17) 「適合性評価の国際標準化 ISO 適合性評価委員会 (CASCO) の役割」

財団法人日本品質保証機構 特別参与 JISC 適合性評価専門委員会委員 三井 清人 氏

第 189 回 (3/16) 「会計士が考える保証業務 (ASSURANCE ENGAGEMENT) とは何か」

高崎経済大学教授 (当会監事) 水口 剛 氏

第 190 回 (4/20) 「IPCC 第 4 次報告書、COP13、及び必要な対応策」

環境監査研究会理事 水谷 潤太郎 氏

第 191 回 (5/18) 「環境税/炭素税」 国内排出量取引等とのポリシーミックスの可能性

「環境・持続社会」研究センター (JACSES) 事務局長 足立 治郎 氏

第 192 回 (6/15) 「一般市民を対象とした排出権の使い方」～人々の行動改革のための仕組み作りとは? クライメート・エキスパート 松尾直樹 氏

第 193 回 (7/13) 「激変する食料事情と日本農業の行方」

農林中金総合研究所 特別理事 薦谷 栄一氏

第 194 回 (9/16) 「海洋基本法の背景と今後の展望」 海洋政策研究財団常務理事 寺島 紘士 氏

第 195 回 (10/19) 「日本の森林とそのゆくえ」

日本大学大学院法務研究科教授、生物資源科学部兼任教授 小林 紀之 氏

第 196 回 (11/16) 「カーボンフットプリント」

東京大学人工物工学研究センター 教授 稲葉 敦氏
第 197 回 (12/7) 「世界の食料需給」
東京大学大学院農学生命科学研究科准教授 川島博之 氏

===== 2009年 =====

第 198 回 (1/18) 「東京都環境確保条例と排出権取引」 牛島 聡美 氏 弁護士
第 199 回 (2/22) 「遺伝資源アクセスと利益配分」～生物多様性条約のホットトピック～
名古屋大学エコトピア科学研究所 融合プロジェクト研究部門 同研究所 兼務 附属アジア資源循環研究センター 教授 林 希一郎 氏
第 200 回 (3/15) 「CDSB(Climate Disclosure Standard Board) 基準案について」
CDP(Carbon Disclosure Project)事務局 森澤 みちよ 氏
第 201 回 (4/19) 「日本の木材利用と森林資源」
森林総合研究所 林業経営・政策領域 林業システム研究室 久保山 裕史 氏
第 202 回 (5/17) 「ISO14064, ISO 14065 の海外動向」 専門家
第 203 回 (6/21) 「生物多様性条約&基本法」
財団法人 地球環境戦略研究機関(IGES)プロジェクト・マネジメント・オフィス コーディネーター 小林 正典 氏
第 204 回 (7/26) 「新しいタイプの危機管理」
東洋大学大学院経済研究科委員長 教授 中北 徹 氏
第 205 回 (9/27) 「ISO26000 の動向と企業の対応」
(株) 損害保険ジャパン 理事 CSR・環境推進室長 関 正雄 氏
第 206 回 (10/19) 「環境経営」企業シリーズⅠ
積水化学工業(株) CSR 部 CSR 企画グループ長 白鳥 和彦 氏
第 207 回 (11/18) 「環境経営」企業シリーズⅡ
大成建設株式会社環境本部企画管理部 大竹 公一 氏
第 208 回 (12/6) 「環境経営」企業シリーズⅢ
イオンモール(株) ゼネラルマネージャー 松井 正子 氏

===== 2010年 =====

第 209 回 (1/17) 「COP15 は一体何だったのか」 気候ネット東京事務 平田 仁 氏
第 210 回 (2/21) 「次世代の電力システムシステムについて」
電力中央研究所 小林 広武 氏
第 211 回 (3/14) 「CDP(Carbon Disclosure Project)」
CDP Japan 事務局長 森澤 みちよ 氏

- 第 212 回 (4/18) 「気候変動情報開示の国際動向と CDSB (Climate Disclosure Standard Board)」 公認会計士・日本公認会計士協会 森 洋一 氏
- 第 213 回 (5/16) 「テクノロジー・アセスメント (TA) の科学技術政策における位置づけ」 科学技術振興機構 (JST) 社会技術研究開発センター企画運営室長 篠崎 資志 氏
- 第 214 回 (6/20) 「ホンダのイノベーション戦略」 本田技研工業株式会社環境安全企画室長 篠原 道雄 氏
- 第 215 回 (7/26) 「低炭素社会を実現するために - 大幅削減のシナリオとその道筋 -」 みずほ情報総研株式会社 榎原 友樹 氏
- 第 216 回 (2010/9/26) 「中国の環境政策の動向」 日中環境協力支援センター (有) 大野木 昇司 氏
- 第 217 回 (2010/10/17) 「味の素グループの海外ビジネスと CSR」 味の素 (株) CSR 部 中尾 洋三 氏
- 第 218 回 (2010/11/14) 「グリーンニューディールと世界のエネルギー情勢」 日本エネルギー経済研究所 研究主幹 高木 雄次 氏
- 第 219 回 (2010/12/05) 「CBD-COP10 とビジネス ～愛知目標を読み解く～」 WWF ジャパン 生物多様性条約担当 栗野 美佳子 氏

===== 2011年 =====

- 第 220 回 (1/16) 「金属資源の持続可能性 (特に銅) について」 JOGMEC 特別顧問/東大生産技術研究所客員教授 澤田 賢治 氏
- 第 221 回 (2/21) 「世界・日本の水事情 ～企業との関わりを考える～」 水と環境の未来研究所 大崎 博之 氏
- 第 222 回 (4/17) 「資源問題総論と紛争鉱物」 資源・環境 ジャーナリスト 谷口 正次 氏
- 第 223 回 (5/15) 「TPP と食糧問題」 農林中金総合研究所特別理事 蔦谷 栄一 氏
- 第 224 回 (6/19) 「トリウム熔融塩炉とエネルギーの持続可能性」 豊橋科学技術大学 名誉教授 三田地 敏史 氏
- 第 225 回 (7/21) 「大震災の教訓とエネルギー問題の課題と解決策」 東京大学生産技術研究所 特任教授 金子 祥三 氏
- 第 226 回 (9/18) 「資源・土地制約下, 今後構築すべきエネルギー等インフラ・システム」 土木学会フェロー・上級土木技術者 (環境&流域・都市) 水谷 潤太郎 氏
- 第 227 回 (10/16) 「新しい文明の創造-倫理と連帯に基づき環境と未来の世代の利益を尊重する文明」 元スイス大使 地球システム倫理学会常任理事 村田 光平 氏
- 第 228 回 (11/15) 「今、人権とは何か」 東京経済大学 客員教授 寺中 誠 氏
- 第 229 回 (12/19) 「温暖化への適応策について」 茨城大学教授: 茨城大学地球変動適応科学研究機関長 三村 信男 氏

===== 2012年 =====

- 第 230 回 (1/21) 「アジアの CSR 」 CSR Asia 日本代表 赤羽 真紀子 氏
- 第 231 回 (2/19) 「生物多様性をめぐる実情と ABS(遺伝子資源へのアクセスと利益配分)」 ニムラ・シェネティック・ソリューションズ社長 二村 聡 氏
- 第 232 回 (3/11) 「COP17(ターハン会議)の合意の評価と これからの日本の温暖化対策」
名古屋大学教授 高村 ゆかり 氏
- 第 233 回 (4/15) 「地球温暖化の将来予測とその信頼性」
国立環境研究所 江守 正多 氏
- 第 234 回 (5/20) 「韓国の環境政策とグリーンビジネス」 李 秀澈 氏 (李 秀澈 (り すう ちよる))
- 第 235 回 (6/17) 「中国の環境戦略と NPO/NGO」 駒沢大学文学部助教授 李 研焱 氏 (LI AN AN)
- 第 236 回 (7/22) 「中国は持続可能な社会か?-食と農をめぐる人々の生活から」
早稲田大学 早稲田環境学研究所 研究員・講師 吉川 成美 氏
- 第 237 回 (9/16) 「エネルギー・環境戦略について」
幸せ経済研究所所長 枝廣 淳子 氏
- 第 238 回 (10/14) 「フェアウッドがなぜ必要か? ~世界の違法伐採対策の最新動向」
(財)地球・人間環境フォーラム 坂本 有希
- 第 239 回 (11/25) 「福島第一原発の現状と再稼動を巡る安全性の考え方」
NPO 法人 APAST 理事長 後藤 政志 氏
- 第 240 回 (12/9) 「人口減少する日本 -持続可能性、2つの危機」策の国際的現状」
上智大学経済学部教授 鬼頭 宏 氏

===== 2013年 =====

- 第 241 回 (1/17) 「地震と防災について」 原子力安全基盤機構 技術顧問 濱田 信生 氏
- 第 242 回 (2/17) 「ドーハ会議 (COP18) 会議後の 温暖化対策の国際的現状」
名古屋大学教授 高村 ゆかり 氏
- 第 243 回 (3/17) 「儲かる? CSR」 ニッセイ基礎研究所 川村 雅彦 氏
- 第 244 回 (4/14) 「原子力とテクノロジーアセスメント」
原子力委員会委員長代理 鈴木 達治郎 氏
- 第 245 回 (5/19) 「国家関係から市民関係へ ~日中関係の現在、そして未来~」
駒沢大学准教授 李 研焱 氏
- 第 246 回 (6/16) 「グローバル時代を近現代の歴史から考える」
千葉大学特任准教授 姉川 雄大 氏
- 第 247 回 (7/21) 「元素戦略」 物質・材料研究機構 特命研究 原田 幸明 氏

第 248 回 (9/29) 「持続可能な開発のための教育(ESD)と企業」

ESD-J 事務局長 村上 千里 氏

第 249 回 (10/20) 「少子高齢化社会での日本の経済策について」 津田塾大学 学芸学部

国際関係学科 教授 萱野 稔人 氏

第 250 回 (11/10) EARG 定例会 250 回記念 「環境経営 これまでの 25 年とこれから」

後藤 敏彦(当会 代表幹事)

第 251 回 (12/8) 「新時代のグローバル競争と戦略的イノベーション」

和光大学 経済経営学部教授 山崎 秀雄 氏

===== 2014 年 =====

第 252 回 (1/19) 「COP19 報告 ～交渉論点と日本の新目標について～」

気候ネット理事 平田 仁子 氏

第 253 回 (2/16) 「「建設業の生物多様性対応自己評価プログラム」-その目的と使い方」

CSD 研究会 城西大学現代政策学部准教授 石田 雅昭 氏

第 254 回 (13/3) 「東南アジアにおける廃棄物処理制度及びその実態」 佐藤 泉(弁護士)

第 255 回 (13.4) 「「グローバル時代の競争戦略 - 「トリプル S」の CSR」 CSR/CSV/ESD が分かる」 伊藤園 取締役・CSR 推進部長 笹谷 秀光(ささや ひでみつ)

第 256 回 (5/18) 「ダイバーシティ」 アパショナータ, Inc 代表 パク・スックチャ

第 257 回 (6/15) 「ジェロントロジー (高齢社会総合研究)」

ニッセイ基礎研究所 前田 展弘 氏

第 258 回 (7/13) 「ポスト 2015 枠組み最新動向と課題」

「環境・持続社会」研究センター (JACSES) 事務局長 足立 治郎 氏

第 259 回 (9/21) 「続・食糧危機をああってはいけない」

東京大学大学院学生生命科学研究科 准教授 川島 博之 氏

第 260 回 (10/19) 「日本のものづくり維新」

東京大学大学院経済学研究科 ものづくり経営研究センター 特任教授 吉川 良三 氏

第 261 回 (11/16) 「英蘭系エネルギー企業 ロイヤルダッチシェル New Lens Scenarios」

東京大学公共政策大学院特任教授、昭和シェル石油チーフエコノミスト 角和 昌浩 氏

第 262 回 (12/7) 「温暖化による影響と適応策」

国立環境研究所 社会システム研究センター、環境都市システム研究室 肘岡 靖明 氏

===== 2015 年 =====

第 263 回 (1/18) 「COP20/CMP10 (リマ会議) 報告

NP0 法人 気候ネットワーク理事 平田 仁子 氏

第 264 回 (2/22) 「日本のエネルギー転換戦略の提案 -豊かで安全な日本に-」

公益財団法人 自然エネルギー財団 常務理事 大野 輝之 氏

第 265 回 (3/15) 「新しい企業価値を生む自然資本経営」

京都大学大学院経済学研究科 特任教授 谷口 正次 氏

第 266 回 (4/19) 「世界における水問題とウォーターフットプリントの国際的動向」

東京都市大学環境学部 教授 伊坪 徳宏 氏

第 267 回 (5/17) 「CDP 活動とその活用状況」 CDP 事務局 森澤 みちよ 氏

第 268 回 (6/21) 「はじめての福島学」

第 269 回 (7/12) 「ICT が創る近未来の社会」

富士通株式会社 環境本部 プリンシパルテクノロジスト 朽網 道德 氏

第 270 回 (9/27) 「GFSI(Global Food Safety Initiative)について」

イオン株式会社 GSI プロジェクトリーダー 岸 克樹 氏

第 271 回 (10/18) 「地方消滅の罫 ～ 人口減少社会の正体」

首都大学東京 都市教養学部 准教授 山下 祐介 氏

第 272 回 (11/16) 「国連 2030 アジェンダについて」

「環境持続社会」研究センター (JACES) 事務局長 足立 治郎 氏

第 273 回 (12/7) 「大学における人文社会系の学問の役割」

星槎大学教授、東京大学名誉教授 鬼頭 秀一 氏

===== 2016 年 =====

第 274 回 (1/18) 「責任投資の広がり」と株主行動の変化」

株式会社 QUICK 取締役 ESG 研究所 所長 広瀬 悦哉 氏

第 275 回 (2/22) 「COP21 での合意 (パリ協定) と日本での温暖化対策」

名古屋大学大学院 教授 高村 ゆかり 氏

第 276 回 (3/15) 「日本における CSR・CSV・ESG そして統合報告の現状認識」

ニッセイ基礎研究所 ESG 研究室長 川村 雅彦 氏

第 277 回 (4/17) 「欧州 ESG 投資の現状」

高崎経済大学経済学部 教授、環境監査研究会幹事 水口 剛 氏

第 278 回 (5/15) 「リスクに向き合う」

千葉大学教授、朝日新聞特任論説委員 神里 達博 氏

第 279 回 (6/19) 「COP21 パリ協定後の自然エネルギーの現状と未来」

環境エネルギー政策研究所 松原 弘直 氏

第 280 回 (7/10) 「小型家電リサイクル法について」 株式会社リーテム 浦出 陽子 氏

第 281 回 (9/26) 「企業の生物多様性取り組み 現状と課題」

SunCons 代表理事 栗野 美佳子 氏

第 282 回 (10/6) 「持続可能性をめざす自治体協議会の活動」

イクレイー 日本事務局長 大塚 隆志 氏

第 283 回 (11/20) 「Society 5.0」

株式会社 野村総合研究所 コンサルティング事業本部 栗津 浩太郎 氏

第 284 回 (12/11) 「パリ協定とその後の動向」

名古屋大学大学院 教授 高村 ゆかり 氏

===== 2017年 =====

第 285 回 (1/22) 「少子化克服のための一考察 エマニュエル・トッドの家族人類学、及び癢現代フランス事情を参照して」 慶應義塾大学 教授 堀 茂樹 氏

第 286 回 (2/19) 「ジオマーケティング戦略 - ポスト「マス」時代の消費者分析」

ジオマーケティング株式会社 代表取締役 酒井 嘉昭 氏

第 287 回 (3/19) 「これからの経済としごと」 駒澤大学 専任講師 井上 智洋 氏

第 288 回 (4/23) 「カーボンプライシング」 環境省 海部 愛 氏

第 289 回 (5/18) 「ヒトの素性と文明の問題点」 東京大学名誉教授 尾本 恵一 氏

第 290 回 (6/18) 「気候で読み解く日本の歴史」

日本気象予報会東京支部長 田家 康 (たんげ やすし) 氏

第 291 回 (7/16) 「経済学が世界を殺す」～「成長の限界」を無視した倫理なき資本主義」
資源 ジャーナリスト 谷口 正次 氏

第 292 回 (9/17) 「統合学の基礎付け：新たな文明のパラダイムを求めて」

東京大学 客員研究員、地球・システム倫理学会 評議員 秋山 知宏 氏

第 293 回 (10/15) 「英国とスペインの循環型社会への取り組み」 弁護士 佐藤 泉 氏

第 294 回 (11/12) 「温暖化の進行で世界の穀物収量の伸びは鈍化する」

農研機構 飯泉 仁之直 氏

第 295 回 (12/3) 「仮想通貨その光と影～仮想通貨 vs 中央銀行通貨～」

早稲田大学経営管理研究科 教授 岩村 充 氏

===== 2018年 =====

第 296 回 (1/21) 「COP23 でのノンステートアクターの動き、それを受けて日本は？」

イクレイ日本事務局長 大塚 隆志 氏

第 297 回 (2/25) 「ブロックチェーンの概要、現在の活用事例。今後の活用可能性」

ニッセイ基礎研究所 佐久間 誠 氏

第 298 回 (3/25) 「戸籍アパートヘイト国家・中国の崩壊」

東京大学大学院准教授 川島 博之 氏

第 299 回 (4/15) 「日本の水産資源管理の問題点」 東京海洋大学准教授 勝川 俊雄 氏

第 300 回 (5/20) 「持続可能なモビリティ」 モビリティ研究会

第 301 回 (6/17) 「ブリヂストンの CSR とモビリティ変化への対応」

株式会社ブリヂストン 佐々木 恭子 氏

第 302 回 (7/22) 「すべての子どもが夢や希望を持てる社会の実現に向けて」

「キッズドア」 理事長 渡辺 由美子 氏

第 303 回 (9/17) 「不安な個人、立ちすくむ国家～モデル無き時代をどう前向きに生き抜くか～」 経済産業省 伊藤貴紀 氏

第 304 回 (10/9) 「建築分野における環境負荷削減 技術と環境教育」

千葉工業大学建築学科教授 若山尚之 氏

第 305 回 (11/11) 「サーキュラーエコノミーの革新性と留意点」

SusDi 代表理事 原田幸明 氏

第 306 回 (12/9) 「CO2 排出量削減に関する動向と人工光合成技術」

人工光合成化学プロセス技術研究組合 (ARPCChem) 技術部長 西見 大成 氏

===== 2019 年 =====

第 307 回 (1/20) 「自動車産業を取り巻くホットな話題」

NPO 法人コアネット会員 金子 幹雄 氏

第 308 回 (2/17) 「C0024 カトヴィツェ会議報告と関連動向」

気候ネットワーク理事・CAN-Japan 代表 平田 仁子 氏

第 309 回 (3/17) 「『小さな地球の大きな世界』、フューチャーアース、そして人新生をよりよく生きるために」 Senior Advisor Future Earth Global Hub, Japan 谷 淳也 氏

第 310 回 (4/21) 「習近平のデジタル文化大革命」

ベトナム： ビンググループ主席経済顧問 川島 博之 氏

第 311 回 (5/19) 「海洋プラスチック問題」 東京農工大学農学部 教授 高田 秀重 氏

第 312 回 (6/16) 「細胞力」を高めるには？～「身心一体科学」から健康寿命を延ばす～

東京農工大学 特任教授 跡見 順子 氏

第 313 回 (5/21) 「GAFA」とは何か？ 環境監査研究会 自主研究チーム

第 314 回 (9/22) 「生物多様性および生態系サービスに関する最近の動向 ～IPBES Global Assessment より～」 千葉大学 リモートセンシング研究センター 教授 市井 和仁 氏

第 315 回 (10/20) 「AI 化が変える法律の世界」 環境監査研究会会員 弁護士 佐藤 泉 氏

第 316 回 (11/10) 「中国経済と債務問題」

ニッセイ基礎研究所 上席研究員 三尾 幸吉郎 氏

(2019/12 休会)

===== 2020 年 =====

第 317 回 (1/19) 「COP25 は失敗だったのか？」

WWF ジャパン 気候変動・エネルギーグループ長 山岸 尚之 氏
第 318 回 (2/16) 「分散型エネルギー社会を実現するデジタルグリッドプラットフォーム」
デジタルグリッド株式会社 代表取締役 豊田 祐介 氏
第 319 回 (3/15) 「EU タクソノミー」 高崎経済大学 教授 水口 剛

↑ 会場 2019 年 11 月までは中央大学駿河台記念館、2020 年 1 月からは Accea 神保町店
4 月から 7 月まで 新型コロナ対応のため 休会になる。

第 320 回 (10/18) 「気候危機と after/with コロナ の中でのサステナビリティ経営」
環境監査研究会 代表幹事 後藤 敏彦 氏
第 321 回 (11/15) 「グリーン・リカバリー」
東北大学 環境科学研究科 環境科学政策論 教授 : 明日香 壽川
第 322 回 (12/6) 「持続可能な窒素利用に向けて」
農業環境技術研究所 物質循環研究領域ユニット 林 健太郎 氏

===== 2021 年 =====

第 323 回 (1/17) <新春海外レポート 1. ニューヨーク> 「そして バイデン 新政権へ」
NY Marketing Business Action, Inc. 古市 裕子 氏
第 324 回 (2/21) <新春海外レポート 2. パリ> 「環境対応で国と企業に圧力をかけるフランス市民」
～新聞記事ではわからないコロナ禍のフランスの空気感とその深層
Nagata Global Partners 代表 永田 公彦 氏
第 325 回 (3/21) <新春海外レポート 3. ベルリン> 「エネルギーを自分ごと、地域ごとにするための循環を意識したエネルギーの取り組みとは」
在ベルリン エネルギー問題研究者 西村 健佑 氏
第 326 回 (4/18) 「2030 年代の東京にどう備えるか?」
IHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 川北 秀人 氏
第 327 回 (5/16) 「これからの社会」
千葉大学法政経学部法政経学科教授 倉阪 秀史 氏
第 328 回 (6/20) 「気候変動対応: ヨーロッパでの動きそして日本(さっぽろ)」
北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部 准教授 三上 直之 氏
第 329 回 (7/18) 「日本はどこで間違えたのかーコロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊」
持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 氏
第 330 回 (9/19) 「コーポレートガバナンス・コードの改訂と ESG 投資に与える影響、最近の環境法関連改正の傾向」
当会会員 弁護士 佐藤 泉 氏
第 331 回 (12/5) 「EU タクソノミーの狙いと日本企業への影響」

サンメッセ総合研究所 所長・首席研究員、ニッセイ基礎研究所 客員研究員 川村 雅彦 氏

===== 2022年 =====

第 332 回 (1/16) 「COP26 の成果と日本の脱炭素の課題」(研究会コメント)

一般社団法人 Climate Integrate 代表理事 平田 仁子 氏

第 333 回 (2/20) 「TCFD のメインストリーム化」(研究会コメント)

環境監査研究会 代表幹事 後藤 敏彦 氏

第 334 回 (4/17) 「A New Perspective on ESG」

アラベスク S-Ray 社 日本支店代表 雨宮 寛 氏

第 335 回 (7/24) 「都市、建築物におけるグリーンビジネスの可能性」

株式会社ヴォンエルフ代表取締役、株式会社 Arc Japan 代表取締役 平松 宏城 氏

第 336 回 (9/11) 「日本教育の現状と課題～持続可能な教育とは何か?～」

一般社団法人教育デザイン研究所 代表理事 吉田 和夫 氏

第 337 回 (10/16) 「Z 世代の LIFE SHIFT～人生 100 年時代は到来しない?～」

Fridays For Future Tokyo オーガナイザー 宮崎 紗矢香 氏

===== 2023年 =====

第 338 回 (1/15) 「1.5℃ 達成への道のり COP27 エジプト会議から」

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 事務局長 平田 裕之 氏

第 339 回 (2/19) 「IPCC 報告と『シナリオ』」

国立環境研究所 社会システム領域 副領域長 高橋 潔 氏

第 340 回 (4/16) 「生物多様性条約 COP15 とビジネス: 海外情勢、規格・ルールメイキングの最前線から」 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授 香坂 玲 氏

第 341 回 (5/21) 「脱炭素社会に向けた水素の重要性と人工光合成の役割ー水素基本戦略、カーボンリサイクル、グリーンイノベーション基金ー」

人工光合成化学プロセス技術研究組合 研究知財部長 西見 大成 氏

第 342 回 (7/23) 「日本の物流課題とこれから」

東京大学先端科学技術研究センター先端物流科学寄付研究部門 井村 直人氏

第 343 回 (9/24) 「EU タクソノミーを巡る最新事情」

合同会社オフィス西田 チーフコンサルタント 西田 純 氏

第 344 回 (10/15) 「EU のサーキュラーエコノミーにおける重要政策～リソーシング目標と持続可能な製品政策の実現～」

公益財団法人日本生産性本部 エコ・マネジメント・センター長 喜多川 和典 氏

第 345 回 (11/19) 「情報公開全般・欧州の CSRD」

環境監査研究会 代表幹事 後藤 敏彦 氏

第 346 回 (12/10) 「貿易摩擦、域外適用、サーキュラーエコノミー、独占禁止法、日本の循環資源関係法律の再構築について」 佐藤泉法律事務所 佐藤 泉 氏

===== 2024 年 =====

第 347 回 (1/21) 「日本のエネルギー政策の現状と課題」

自然エネルギー財団 シニアコーディネーター 高瀬 香絵 氏

第 348 回 (2/18) 「サステナブルファイナンスの最近の動向」

高崎経済大学 学長 水口 剛 氏

第 349 回 (4/21) 「日本の持続可能性」と「地球の持続可能性」 - 「いままでとこれから」、「21 世紀の課題(2014)」環境監査研究会での研究成果を参考にして -

環境監査研究会 理事 松本 徹 氏

第 350 回 (5/19) 「日本の DX の問題点 (世界とのギャップ)」

気候変動イニシアティブ (JCI) 共同代表 加藤 茂夫 氏

第 351 回 (6/16) 「ビジネスと人権～日本国と世界のギャップ～」

東京経済大学 客員教授 寺中 誠 氏

第 352 回 (7/21) 「東欧の環境政策と現状」 佐藤泉法律事務所 佐藤 泉 氏

第 353 回 (9/29) 「建設業の環境取り組み」

前田建設工業株式会社 環境安全部 大竹 利幸 氏

第 354 回 (10/27) 「企業版ふるさと納税で実現する新たな官民連携の世界」

企業版ふるさと納税マッチング・アドバイザー 笠井 泰士 氏

第 355 回 (11/17) 「ESG 投資と二つの持続可能な開発」

慶応義塾大学 商学部 准教授 杉本 俊介 氏

第 356 回 (12/8) 「EU のグリーン戦略総論」

ゼロボート総研 所長/GRI GSSB メンバー 待場 智雄 氏

===== 2025 年 =====

第 357 回 (1/19) 「うごきだすサーキュラー・エコノミー」

(一社) サステナビリティ技術設計機構 代表理事/ (国研) 物質・材料研究機構 アドバイザー 原田 幸明 氏

第 358 回 (2/16) 「日本人の知らないベトナムの真実」

Martial Research & Management Co. Ltd 顧問 川島 博之 氏

第 359 回 (3/16) 「トランプ新政権：移民強制送還と関税が与えるアメリカ経済への影響
混沌とするニューヨークの状況

NY Marketing Business Action, Inc. / Global Press Japan 古市 裕子 氏

第 360 回 (4/20) 「トランプ 2.0 と欧州～パリからの報告～」

Nagata Global Partners 代表 永田 公彦 氏

第 361 回 (5/25) 「地域のストックマネジメントと住民参加 - 未来ワークショップの経験から」 千葉大学大学院社会科学研究院 教授 倉坂 秀史 氏

362 回 (6/14) 「トランプ政権の環境政策に与える影響」 弁護士 佐藤泉 氏

「EARG の振り返りとこれからのサステナビリティ・マネジメント」 後藤敏彦 氏 EARG 代表幹事

2. 講演会

平日の夜を中心に、環境監査を実施している企業の方、専門家の方々のお話を伺い、文献ではわからない環境監査の実務面の情報や最新の情報を得ることを目的とした会として開かれました。日曜日の定例会が講演会形式に移行するに従い、サロンに移行しました。

第 1 回 ('91 8/1) 「環境監査の先進事例」 - NEC の実践 -

講師 日本電気 環境管理部長代理 山口耕二氏

第 2 回 ('92 1/20) 「ホールキンブレレル社の環境監査業務」

講師 エピスタット東アジアディレクター コールド・スミス氏

第 3 回 ('92 2/6) 「ダウ・ケミカルの環境管理政策と環境監査」

講師 ダウ・ケミカル日本 環境管理部長 高木登夫氏

第 4 回 ('92 11/21) 「米国での環境保護団体及び企業との関係」

講師 Conservation International 福岡史子氏

第 5 回 ('92 11/21) 「アメリカでのリサイクル運動について」

講師 Global Exchange キャロル・ワグナー氏

第 6 回 ('93 6/4) 「欧州の環境監査最新動向について」

講師 UK CEED デビット・コープ氏

3. サロン

月 1 回の定例会と別に、平日の夜の会合として開かれました。

また、2021 年、2022 年には、定例会日程の一部を、会員有志が話題提供をするかたちで実施しました。

第 1 回 ('94/10/19) 「BCSD ジュネーブ会議」 笹川財団 長谷川雅代氏

第 2 回 ('94/1/6) 「イギリスの環境管理動向」 UK CEED デビット・コープ氏

第 3 回 ('94/5/16) 「アムステルダム大学交流会」

第 4 回 ('94/6/30) 「ISO ゴールドコースト会議」 旭化成 大島義貞氏

- 第 5 回（'95/1/6） 「英国自治体の環境監査」 UK CEED デビット・コープ氏
- 第 6 回（'95/4/17） 「IBM の環境監査実務」 IBM USA ジュン氏
- 第 7 回（'95/5/26） 「EAR の活動と EARG」 EAR R. ランド氏
- 第 8 回（'96/9/13） Asia Environmental Trading Review D. タナー氏
- 第 9 回（'96/11/13） 「イギリスの環境行政雑感」 環境庁 江口博行氏
- 第 10 回（'97/7/13） WWF（世界自然保護基金） クリス・エリオット氏
- 第 11 回（'97/10/3） 米国 EPA Holly Elwood さんを囲む会 H. Elwood 女史
- 第 12 回（'97/10/15）
- アジア環境レビュー誌 Dylan Tanner 氏を囲む会 D. タナー氏
- 第 13 回（'98/1/7） 英国留学中の西澤真理子さんを囲む会
- 第 14 回（'98/1/23） アジア環境レビュー誌 Dylan Tanner 氏を囲む会—2 回目 D. タナー氏
- 第 15 回（'98/7/13） 「環境会計」 日本 IBM 岡本享二氏
- 第 16 回（'98/10/21） 「コー円卓会議（Global Caux Round Table）」 イトーヨーカ堂 稲岡稔氏
- 第 17 回（'99/7/13） イギリス公認会計士勅許協会 Roger Adams 氏を囲む会 R. アダムス氏
- 第 18 回（'99/10/27） 「POPS について」 山岡 真佐美氏
- 第 19 回（2000/4/7） 「政令都市での廃棄物行政について」 環境監査研究会幹事 高橋 俊和氏
- 第 20 回（2001/4/25）
- 「環境省の機構と機能」 環境省総合環境政策局環境経済課 課長補佐 熊倉基之氏
- 第 21 回（2001/6/7） 「環境会計」、国連環境会計専門家フォーラムに参加のため来日した、テラス・インスティテュート、デボラ・サベッジ氏、英国 ACCA、レンチェル・ジャクソン氏を迎え開催

- 1 回 サロン 2021/11/21 「SDGs の企業での普及～課題は何でどう克服するか～」
- 2 回 サロン 2022/3/13 「メタバース、情報化社会の未来と環境監査研究会の活動テーマ」
- 3 回 サロン 2022/5/15 「株式市場と TCFD 情報開示、特にシナリオ分析について」
- 4 回 サロン 2022/6/19 「情報化社会とハイブリッド戦にみる個人と社会と環境と」
- 5 回 サロン 2022/11/20 「IPCC の AR6 をベースにして気候変動に関して様々な観点からの意見交換」
- 6 回 サロン 2022/12/11 「ウクライナの戦争の論点」
- 7 回 サロン 2023/3/19 「ビジネスと人権について」
- 8 回 サロン 2023/6/18 「気候変動について」
- 9 回 サロン 2024/3/17 「日本におけるサイバーセキュリティ」

4. 設立記念会合・シンポジウム

- ・ 設立 1 周年記念シンポジウム（'92/8/30）

講演—環境管理システムの実例

「ザ・ボディショップの実例」 ザ・ボディショップ 小野麻弥氏

「NEC の実例」 日本電気 山口耕二氏

パネルディスカッション—環境監査の現状と展望—

＜パネラー（五十音順）＞

上田晃輔氏（社）全国産業廃棄物連合 海野みづえ氏 ローランド・ベルカール・ファウベル

河野正男氏 横浜国立大学教授 水口剛氏 バルディーズ研究会

矢部浩祥氏 中央大学教授

＜コーディネーター＞

大磯幸雄氏 公認会計士

- ・ 設立 3 周年記念会合（'94/8/27）

講演 「財政金融と環境」 大蔵省 加藤秀樹氏

- ・ 設立 4 周年記念会合（'95/8/26）

講演—アメリカ報告

「住んでみて発見したアメリカの環境事情」 EARG 倉阪智子氏

「ライフサイクル全体のデータで自動車の寿命変化の

影響をみる—米国留学報告」 東洋経済新報社 森 哲郎氏

- ・ 設立 5 周年記念会合（'96/8/24）

講演 「EMS で SD は実現するのか」 京都大学教授 内藤正明氏

＜パネラー（五十音順）＞

上原春夫氏 海野みづえ氏 河野正男氏 内藤正明氏 村上智美氏

- ・ 設立 6 周年記念会合（'97/8/23）

講演—情報公開について考える

「情報公開と民主主義の原理～「恥の文化」「罪の文化」の視点から」 関 曠野氏

パネルディスカッション—企業の情報公開—

＜パネラー（五十音順）＞

角田 季美枝氏 環境監査研究会幹事

東間 一夫氏 日本国土開発（株）環境部長

檜木 茂實氏 環境監査研究会幹事

間瀬 美鶴子氏 監査法人トーマツ公認会計士

・設立 7 周年記念会合（' 98/8/29）

講演―「環境会計」 横浜国立大学経営学部教授・環境監査研究会顧問 河野正男氏

「米国環境保護庁の環境会計」 米国環境保護庁 H. エルウッド氏

パネルディスカッション―外部環境会計・内部環境会計―

＜パネラー（五十音順）＞

河口 真理子氏 大和総合研究所証券アナリスト

國部 克彦氏 神戸大学助教授

多田 博之氏 （株）ソニー社会環境部

伏見 小百合氏 日経産業消費研究所・ジャーナリスト

丸山 陽司氏 日本公認会計士協会環境監査研究部会長・KPMG

・GRI 環境報告書セミナー（' 99/4/14）

挨拶（環境報告書をめぐる動向について等）

中央大学商学部教授・環境監査研究会顧問 矢部浩祥氏

（社）産業環境管理協会環境管理センター調査企画部部長 須田茂氏

（社）全国環境保全推進連合会副理事長・環境報告書ネットワーク代表幹事 山口耕二氏

GRI について 環境監査研究会代表幹事 倉阪智子氏

ガイドライン解説 環境監査研究会代表幹事 後藤敏彦氏

環境報告書の方向性と GRI の意義 神戸大学助教授 國部克彦氏

（グリーン・リポーティング・フォーラム共同コーディネーター）

・設立 8 周年記念会合（' 99/8/21）

挨拶 横浜国立大学経営学部教授・環境監査研究会顧問 河野正男氏

講演―「リスク・コミュニケーションと環境マネジメント」

横浜国立大学経営学部教授 浦野 紘平氏

パネルディスカッション

＜パネラー（五十音順）＞

池田 こみち氏 （株）環境総合研究所副所長

佐々木 修氏 （株）東芝 研究開発センター施設・環境保全部環境保全担当グループ 長

塩沢 文朗氏 通商産業省化学品安全課長

筑紫 みずえ氏 （株）グッドバンカー代表取締役

小山 富士雄氏 三菱化学（株）環境安全部部長

・GRI シンポジウム（' 99/12/16）

挨拶（持続可能性報告についての世界共通フレーム等）

中央大学商学部教授・環境監査研究会顧問 矢部浩祥氏

GRI について 環境監査研究会代表幹事 倉阪 智子氏

基調講演 I Dr. Allen White

基調講演 II 日本電気(株)環境管理部長、環境報告書ネットワーク代表幹事 山口 耕二氏

パネルディスカッション

テーマ「企業は何故、持続可能性についてのパフォーマンスを報告するのか」

コーディネーター Dr. Allen White

後藤 敏彦氏（環境監査研究会代表幹事 GRI 運営委員）

<パネラー（五十音順）>

河口 真理子氏（株）大和総研産業コンサルティング部次長 証券アナリスト

多田 博之氏 ソニー(株)社会環境部企画室長

山口 昭氏（株）木の城たいせつ 創業オーナー、（株）冬総合研究所 創設者

吉田 達雄氏 キリンビール(株)取締役社会環境部長

和田 政信氏 日産自動車(株) 環境・安全技術部部長

・設立 9 周年記念会合（2008/26）「GRI ガイドラインと今後の方向性」

挨拶—中央大学教授・環境監査研究会顧問 矢部浩祥氏

解説—「GRI2000 年 6 月ガイドラインについて」

環境監査研究会代表幹事・GRI 運営委員 後藤敏彦

基調講演—「環境報告書の方向性」 河野正男氏

パネルディスカッション

コーディネーター 後藤敏彦

<パネラー（五十音順）>

大和田 順子氏 ザ・ボディショップ CR 部長

河野 正男氏 横浜国立大学教授 環境監査研究会顧問

高 巖 氏 麗澤大学国際経済学部助教授

西澤 真理子氏 ドイツ・バーデン・ヴュルテンブルク州技術アセスメントセンター客員研究員

・「GRI ガイドラインと SRI（社会的責任投資）」（2001/3/15）

基調講演 I 「社会責任報告・GRI ガイドライン・SRI」

横浜国立大学教授 環境監査研究会顧問河野 正男氏

基調講演 II 「SRI（社会的責任投資）について」

高崎経済大学助教授 環境監査研究会幹事 水口剛氏

パネルディスカッション

コーディネーター

後藤 敏彦氏（環境監査研究会代表幹事 GRI 運営委員）

<パネラー（五十音順）>

河口 真理子氏 証券アナリスト

斎藤 慎 氏 (株)Earth Sector(New York)共同設立者

西口 徹氏 朝日生命保険相互会社社会貢献室長

菱山 隆二氏 経営倫理実践研究センター

水口 剛氏 (前出)

・GRI シンポジウム「信頼性の確保について」(2001/7/9)

挨拶と趣旨説明 後藤敏彦(環境監査研究会代表幹事 GRI 運営委員)

基調講演Ⅰ 「GRI～Now &Future (GRI の今後)」

GRI 事務局 テオドリーナ・レトレンスカ博士

基調講演Ⅱ 「信頼性の確保について」

GRI 運営委員・VWG 座長 カダ公認会計士協会 アラン・ウィルス氏

パネルディスカッション

コーディネーター

水口 剛氏(高崎経済大学助教授 環境監査研究会幹事)

<パネラー(五十音順)>

アラン・ウィルス氏 前出

荒田 鉄二 氏 環境文明21研究所 NEC 環境報告書関与

飯田 富美子氏 環境管理センター常勤監査役 日本監査役協会常任理事

古室 正充氏 (株)トマツ環境品質研究所代表取締役社長 公認会計士

・設立 10 周年記念会合(2001/8/26)「次の10年の課題」

挨拶—横浜国立大学教授・環境監査研究会顧問 河野正男氏

基調講演—環境文明21 代表 加藤三郎氏

中央大学駿河台記念館

・GRI シンポジウム「GRI ガイドラインと企業評価」

2002年3月7日(木) 青学会館

(このシンポジウムは平成13年度地球環境事業団地球環境基金の助成を受けて開催されました)

基調講演Ⅰ 星野 進保氏 向社会性研究所代表(元NIRA理事長)

基調講演Ⅱ 倉阪 秀史氏 千葉大学法経学部助教授

パネルディスカッション

パネリスト (50 音順)

倉阪 秀史氏 (基調講演者)

小樽 雅章氏 向社会性研究所

斎藤 栄子氏 (株)三和総合研究所 環境・エネルギー室 室長

三田 和美氏 環境経営学会会長代理

山村 宜之キリンビール 社会環境部部長代理

コーディネーター 後藤敏彦（環境監査研究会代表幹事、GRI 運営委員）

・設立 11 周年記念会合（2002/8/31）「企業の社会性取組と GRI ガイドライン」

基調講演「企業の社会性とインテグリティー社会と市場が変わる時代にあってー」

高 巖氏 麗澤大学 倫理研究センター教授

「GRI 2002 年版ガイドラインについて」

後藤 敏彦氏 EARG 代表幹事、GRI 理事

パネルディスカッション

コーディネーター 後藤敏彦（前出）

パネリスト 稲永 弘氏 株式会社トーマツ審査評価機構代表取締役社長、EARG 理事

川村 雅彦氏 株式会社ニッセイ基礎研究所主席主任研究員

藺田 綾子氏 株式会社クレアン代表取締役社長

菱山 隆二氏 企業行動研究センター所長（元三菱石油（株）顧問）

・設立 12 周年記念シンポジウム （2003/8/31）

テーマ「オーフス条約と企業への影響」

基調講演「オーフス条約についてー」 高村ゆかり 静岡大学助教授

パネルディスカッション「オーフス条約と企業への影響」

パネリスト

織 朱實 氏 法学博士 関東学院大学助教授

中下 裕子 氏 弁護士（オーフス・ネット世話人代表）

多田 博之 氏 JfS 共同代表（予定）

坂本 茂實 氏 EARG 理事（IBM）

コーディネーター 後藤 敏彦（前出）

・設立 13 周年記念シンポジウム （2004/8/21）

テーマ「日本の食料安全保障をどう考えるか」

場 所 中央大学駿河台記念館（千代田区神田駿河台 3-11-5）

基調講演 食料問題を考える

薦谷 栄一氏（株）農林中金総合研究所常務取締役

パネルディスカッション「食料問題と企業の役割」

伊庭 みか子（同時通訳・翻訳家、安全な食と環境を考えるネットワーク事務局長）

久保田 忠夫（NECファクトリエエンジニアリング取締役）

薦谷 栄一（前出）

水谷 潤太郎（環境監査研究会）

コーディネーター 後藤 敏彦（環境監査研究会理事代表幹事）

・設立 14 周年記念シンポジウム（2004/8/27）

テーマ「Sustainability Development と CSR」

スピーカー・パネリスト

貧困削減 坂元浩一氏 東洋大学大学院国際地域学研究科教授

生産・消費形態の変更 倉阪秀史氏 千葉大学法経学部助教授

天然資源の基盤の保護・管理 足立直樹氏 理学博士/株式会社 CSR 経営研究所取締役

パネル・ディスカッション

コーディネーター 後藤敏彦 環境監査研究会代表幹事

・設立 17 周年記念シンポジウム（2008/8/30）

テーマ：「気候変動と経済」

場 所： 中央大学駿河台記念館（千代田区神田駿河台 3-11-5）

スピーカー 増井 利彦 氏 国立環境研究所 社会環境システム研究領域統合評価研究室室長

パネル・ディスカッション

パネリスト 則武 祐二 氏（株）リコー 社会環境本部 環境経営推進室室長

漆崎 昇 氏 株式会社大林組

藤村 コノエ 氏 NPO 法人環境文明 21 協働代表

コーディネーター： 後藤敏彦 環境監査研究会代表幹事

・設立 18 周年記念シンポジウム（2009/8/29）

「企業と生物多様性」

田中 章 氏 東京都市大学環境情報学部環境情報学科 准教授

与島 裕世 氏 サラヤ株式会社営業統括本部広告宣伝部長

高屋 雅光 氏 サントリービジネスエキスパート（株）環境活動部長

竹本 徳子 氏 東北大学大学院生命科学研究科生態適応グローバル COE 特任教授

・設立 19 周年記念シンポジウム（2010/8/28）

「これまでとこれからの環境・CSR 経営」

基調講演：「次世代 EMSM とサステナビリティ経営」

吉田敬史 氏 グリーンフューチャーズ代表

パネル・ディスカッション「これまでとこれからの環境・CSR 経営」

パネリスト

田井 久恵 帝人株式会社 理事 CSR 企画室長

藺田 綾子 非営利法人サステナビリティ日本フォーラム事務局長

川村 雅彦（株）ニッセイ基礎研究所上席主任研究員（当研究会会員）

稲永 弘 （株）トーマツ審査評価機構代表取締役社長（当研究会理事）

コメンテーター 基調講演者

コーディネーター：後藤敏彦 環境監査研究会代表幹事

・ 設立 20 周年記念シンポジウム (2011/8/27)

“東日本大震災後の日本人と日本企業の役割と責任”

基調講演：「CSR の新しいステーション」 後藤 敏彦(当会 代表理事)

パネリスト

倉阪 秀史(千葉大学 法経学部教授)

寺中 誠 (東京経済大学 客員教授)

後藤 敏彦(当会 代表幹事)

コメンテーター 水谷 潤太郎(当会 理事)

コーディネーター 稲永 弘 (当会 理事)

・ 設立 21 周年記念シンポジウム (2012/8/25)

“ リオ + 20 と グリーンエコノミー ”

基調講演：足立 治郎 (「環境・持続社会」研究センター(JACSES) 事務局長)

パネリスト 宮本 武 (グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク事務局長)

パネリスト 後藤 敏彦 (当会 代表幹事)

コーディネーター 稲永 弘 (当会 理事)

・ 設立 21 周年記念シンポジウム (2013/8/24)

“ 報告書のこれから ”

基調講演：「 GRI ガイドライン第 4 版(G4 ガイドライン)について」

富田 秀実 LRQA ジャパン「GRI マルチステークホルダー委員会」委員長

「 国際統合報告委員会(IIRC)での検討内容について 」

森 洋一 公認会計士 国際統合報告委員会(IIRC)メンバー

パネルディスカッション

富田 秀実、森 洋一、後藤敏彦(当会 代表幹事 G4 マルチステークホルダー委員会アドバイザー)

・ 設立 22 周年記念シンポジウム (2014/8/23)

“ 2030 年 社会・企業の責任 ”

基調講演：「2030 年 社会・企業の課題」

石田 秀輝 地球村研究室 代表社員・東北大学名誉教授

『環境の世紀に求められるあたらしい価値』 - 間抜けのビジネス考 -

パネルディスカッション

パネリスト 笹谷 秀光(株式会社伊藤園 取締役 CSR 推進部長)

藺田 綾子(株式会社 クレアン 代表取締役)
後藤 敏彦(当会 代表幹事 環境経営学会会長)

- ・ 設立 24 周年記念シンポジウム (2015/8/22)
 - “ 競争戦略としてのグローバルルール ” -世界市場で勝つ企業の秘訣-
 - 基調講演 : 「競争戦略としてのグローバルルール」
 - 藤井 敏彦 (経済産業研究所コンサルティングフェロー)
 - ディスカッション : ” -世界市場で勝つ企業の秘訣- ”
 - コメンテーター 後藤 敏彦 (当会 代表幹事)
 - コーディネーター 稲永 弘 (当会 理事)

- ・ 設立 25 周年記念ミニシンポジウム (2016/8/20)
 - “ パリ協定後の世界と日本 : パラダイムチェンジ ”
 - 基調講演 : 「パリ協定後の世界と日本 : 企業活動投資への影響を中心に」
 - 明日香 壽川 (あすか じゅせん 東北大学アジア研究センター・環境科学研究科 教授)
 - ディスカッション “ パリ協定後の世界と日本 : パラダイムチェンジ ”
 - コメンテーター 後藤 敏彦 (当会 代表幹事)
 - コーディネーター 稲永 弘 (当会 理事)

- ・ 設立 26 周年記念ミニシンポジウム (2017/8/26)
 - “ 気候変動交渉、世界の本気度 ”
 - 基調講演 : 「気候変動交渉、世界の本気度」
 - 平石尹彦 (ひらいし たかひこ) 一般社団法人日本 UNEP 協会顧問
 - ディスカッション 「気候変動交渉、世界の本気度」
 - コメンテーター 後藤 敏彦 (当会 代表幹事)
 - コーディネーター 川村 雅彦 (当会 会員)

- ・ 設立 27 周年記念ミニシンポジウム (2018/8/26)
 - “ ESG 投融資 と 情報開示 ”
 - 講演 1(水口剛*:当会監事・高崎経済大学副学長): 情報開示・ESG 投融資の動向(40 分)
 - 講演 2(後藤敏彦*:当会代表): 金融安定理事会のタスクフォース(TCFD)など褒
 - 講演 3(松本徹:当会理事)タラノア対話など褒(10 分)
 - ディスカッション “ ESG 投融資 と 情報開示 ”

- ・ 設立 28 周年記念ミニシンポジウム (2019/8/31)
 - “資本主義の今後とそれからの文明社会の方向性”

基調講演 “資本主義の今後とそれからの文明の方向性 ～マイナス金利と高いROE～ ” 水野 和夫

ディスカッション I (パネリスト 水野和夫、後藤敏彦、川村雅彦、水口剛)

ディスカッション II (フロア：参加者全員でディスカッション)

5. 入門セミナー

- ・環境管理・監査システム入門講座（’95/2/25）環境監査研究会 特別企画
- ・環境管理・監査セミナー（’96/5/16-17）工学研究社主催

6. 特別プロジェクト

- ’92 環境報告書を読む <コーディネーター：倉阪 智子氏>
- ’93/6- 環境監査チェックリストの比較研究 <コーディネーター：海野みづえ氏>
- ’94/10-’96/3 環境報告書を読む（ERP）（バルティース研究会との合同プロジェクト） <コーディネーター：角田季美枝氏>
- ’96/4-’98/4 地方自治体の EMS（LEMS） <コーディネーター：村上 智美氏>
- ’98/1-6 環境報告書表彰プロジェクト 分科会（ERA） <コーディネーター：後藤 敏彦氏>
- ’98/3-6 TC207 サンフランシスコ総会プロジェクト（SFP） <コーディネーター：上原 春夫氏>
- ’98/7-’99/7 環境報告書ベンチマークプロジェクト（BER） <コーディネーター：後藤 敏彦氏>
- ’98/10-’99/6* 環境監査人ネットワーク設立準備会（EANet） <コーディネーター：岸川 浩一郎氏>
*日本環境監査人協会（JEAA）設立（’99年6月12日）を以って解散。
- ’99/7-’2000/8* 環境報告チーム <コーディネーター：後藤 敏彦氏>
- ’2000/9- 2000 年度環境報告チーム <コーディネーター：後藤 敏彦氏>
- ・2000/11/29 ワークショップ 社会的指標について
話題提供 1 Dr. Robert Kinloch Massie, GRI Chair
話題提供 2 稲岡 稔氏（イトーヨーカ堂取締役） 第三者検証
話題提供 Dr. Robert Kinloch Massie, GRI Chair
(全体討論司会 後藤敏彦)
- ・2001/7/10 GRI ベリフィケーションワーキンググループ
コーディネーター：アラン・ウィリス氏（CICA）、テオドリーナ・レシドレンスカ氏（GRI）
後藤 敏彦氏、企業、監査法人、NGO、海外、等 35 名

7. その他

- ・ 1998 年度より 2001 年まで環境レポート大賞の公式協力団体。（1997 年度については非公式協力）
- ・ 平成 11 年度、12 年度、13 年度において、当会の活動のうち「環境報告書グローバルガイド策定普及プロジェクト」が環境事業団の助成金対象事業に認定されています。

以上